

ria; China borealior.

2) *Pueraria chinensis* (BENTH.) OHWI, comb. nov.

Neustanthus chinensis BENTH. Fl. Hongk. (1861) 86.

Pueraria Thunbergiana (non BENTH.) BENTH. l. c. partim; HEMSLEY l. c. ex pte.

A *P. Thunbergiana* BENTH. differt pedunculis communis longioribus, bracteolis latioribus ovatis apice obtusulis nec acutis non lanceolato-ovatis, calycis lobis obtusioribus, floribus paullo majoribus, alae margine exteriori non appendiculato, interiore appendiculo brevi deltoideo tantum instructo, carina subduplo latiore dorso arcuata nec recta.

Nom. Jap. Shina-no-kuzu. (Fig. I, a et b).

Hab. Formosa rarissima (Keelung, leg. Y. SHIMADA!); China australior (LAU n. 552; McCLURE n. 13533).

3) *Pueraria tonkinensis* GAGN. in LECOMTE, Not. System. 3 (1914) 202 excl. synonym. et in LECOMTE, Fl. Génér. Indochin. 2 (1916) 250.

Pueraria Thunbergiana (non BENTH.) MATSUM. in ITO et MATSUM. Tent. Flor. Lutchuens. (1899) 426; MATSUM. et HAYATA Enum. Plant. Formos. (1906) 111; HAYATA Icon. Pl. Formos. 1 (1911) 198.

Pueraria Thunbergiana var. *formosana* HOSOKAWA in Journ. Soc. Trop. Agric. Taih. 4 (1932) 310.

Nom. Jap. Taiwan-kuzu. (Fig. 3, a et b).

Hab. Riukiu; Formosa; China australis.

ナキリスゲの學名について

大井次三郎

ナキリスゲは永い間 *Carex brunnea* THUNBERG (Flora Japonica 1784) と考へられて居り私も左様思つて居た一人である。しかし從來ナキリスゲとし居た植物に二品ある事は私も數年前から知つて居たので氣がついた時にも調べては見たのであつたが THUNBERG の記載でははつきりせず産地も判らず SCHUHR の Riedgäser に出て居る此種の圖も疑問を解決するに至らず實の所少々閉口して居たのであつた。此の二品と云ふのは、一つは本州の東北地方から四國九州全土に亘つて産する普通の意味のナキリスゲで吾々が普通ナキリスゲと云ふのは此の型である。他の一つは南は台灣から琉球諸島全体に分布し、尙九州の平地、四國、本州太平洋岸の海岸地方に産するが時には大和等にも見られる。東限は私の知つて居る範圍では二三年前東京の靱山氏から頂いた神奈川縣の標本のそれであらう。これは眞正のナキリスゲの南型でそれよりも小穂の數が多くて分枝も多く、巾が狭く果囊は餘り開張せず鱗片よりも僅かに長く且小形

で巾も狭く、脈は著しからず毛茸は少なく且餘り開張せず。色も赤褐色を帯びて居る。THUNBERG の *C. brunnea* は日本産である事から推して此等の何れかの一つであらう事は疑ひもないが此の型か北の型か原標本を見ない内は判らぬ問題であるので Dr. C. G. ALM 氏に依頼して花序の寫眞と小穂一個を貰ひ受ける事が出来ないのであるが吾々の豫想に反して南の型の毛の少ない品であつた。従つて *Carex brunnea* TH. はナキリスグには適用出来ないので私は北型に *Carex Nakiri* OHWI sp. nov. と呼ぶ事を提案する。此の兩品のどちらとも云ひ切れないものに *Carex lenta* D. DON. と *Carex ischnantha* STEUD. とがある。後者の type locality は日本であるが記載によると極若い標本ではつきりせぬし、前者は地理的に大變離れて居るので標本を見ずに異同を論ずるのは危険である。又 *Carex Franchetiana* LÉV. et VAN. は少くとも一部分はセンダイスグ (*Carex sendaica* FRANCH.) であつてナキリスグではない。前記の種類が若しもナキリスグであつた場合にはそれに改める事にして、不確な名を用ふるよりも新名を選んだ南の型、即ち眞の *Carex brunnea* THUNB. の和名は *Carex gentilis* var. *oshimensis* KÜKENTH. に對してつけられたコゴメスグを用ふればよい。*Carex amami-oshimensis* AKIYAMA. はその異名となるべきである。

抄 録

アーノルド氏：——*Archaeopteris* は羊齒狀裸子植物ならん、(C. A. ARNOLD: —On Seed-like structures associated with *Archaeopteris*, from the Upper Devonian of Northern Pennsylvania, (Contrib. Mus. of Palaeont. Univ. Michigan, IV. 1935. p. p. 283-286, 1 fig.)

上部泥盆から下部石炭紀に産し其時代の示準化石として有名なる *Archaeopteris* は元來何者なるかに就ては世人の均しく注目せし所なるが、アーノルド氏は今回北米の上部泥盆にて裂片のある穀斗上に座す種子狀構造のものが *Archaeopteris hibernica* の葉と共存するを發見し、多分本品は羊齒狀裸子植物の一ならんと云ふ。(G. KOIZUMI)

萬國植物命名規則

(本誌 第四卷 第三號 191 頁に續く)

第 10 節 同じ級の二つの群が合一された場合、或ひは多型の生代變更をなす菌類に於ける名の選擇 (第 56-57 條, 勸告 XXXIII-XXXV)

第 56 條. 二つ又はそれ以上の同じ級の群を合一する時には最も古き適法名又は (種及び其の小區分にては) 最も古き適法の性質形容詞を保留する。名又は性質形容詞が同じ日附である場合